

## 目次

全学FD推進委員長挨拶	1
2015年度授業改善のための「学生による授業評価」アンケート実施報告	2
SA・TA制度活用状況	3
特集 教員・SA・受講生と語るSAの効果	4
2015年度活動報告 ・全学FD研修会 ・全学FD学習会	6
外部研修会参加報告	8
2015年度全学FD推進委員会構成メンバー紹介	8

## 全学FD推進委員長挨拶

全学FD推進委員長 副学長、社会学部教授 松端 克文



FD活動は、大学において、あるいは各学部において、組織的に授業内容・方法を改善し、教育の質を向上させるための取り組みです。

今年度のFD委員会活動は、昨年度に引き続き、計画的に事業を実施するとともに、これまでの各種事業の実施状況や教職員からの要望・ニーズをふまえて、事業の実施方法や内容を点検・検証することで課題や問題点を確認し、可能な範囲で改善していくという方向で取り組んできました。

例えば、授業評価アンケートにおいては、2015年度より、アンケート様式を4種類から2種類へ削減し(共通科目、外国語科目、資格課程科目を1種類に統一し、健康・スポーツ学演習科目との2種類へ削減)回答しやすいアンケート用紙に改善するとともに減量化しました。今後はアンケートWEB化を含めた実施方法について、引き続き改善の検討を行う予定です。

また、SA・TAでは、ガイドラインにおける制度説明をよりわかりやすく書換え、利用手続書類を簡素化することで、より多くの教員が利用しやすくなるように改善しました。

そして、研修会・学習会においては、まず可動式机・椅子の導入に伴い第1回全学FD研修会「可動式机・椅子を使ったアクティブ・ラーニング体験セミナー」を開催しました。

その後、教職員から寄せられている声に基づき、第2回全学FD研修会「教員のための面接技法～すぐに生かせる理論と方法」として、キャンパス・ソーシャルワーカーの野崎千里さんを講師に迎え、学生への相談支援の考え方や方法について学ぶ機会を持ちました。学生からの多様な相談に応じるといふことと、学生を教育するとか指導するといふこととのあいだには、共通性もあるものの、大きな違いがあります。後者の場合は、教職員の教育や指導しようとする意図が重要となりますが、前者の場合にはまずは学生の声を「聴く」ことが重要となります。その上で、個々の学生にじっくりと寄り添いながら支えるという姿勢が求められるわけですが、一人の教職員だけで担いきれるわけではありませんので、学内の各部署や教職員間で、連携して取り組んでいくことが重要になります。

第3回の全学FD研修会「障がいのある学生のための『合理的配慮』のあり方について」では、2016年4月より施行される障害者差別解消法をふまえて、障がいのある学生の大学としての支援のあり方について、本学社会学部社会福祉学科教員の黒田隆之さんと障がい学生支援のコーディネーターである学生支援課・ボランティア活動支援室職員の鳴瀬剛大さんより法律の内容や本学での取り組み状況、今後の課題などについてお話しいただきました。「車椅子の方お断り」といった障がいを理由とした差別がいけないことは当然ですが、必要な配慮(「合理的配慮」)を欠くことも差別に該当するので、個々の学生としっかり話し合うことで(「建設的対話」を通じて)、大学としての対応のあり方を個別具体的に探っていく必要があるといえます。

そして2015年度の研修会としては4回目になるのですが、参加体験型のワークショップの技法も取り入れていることから第1回全学FD学習会として、立教大学経営学部経営学科助教館野泰一さん、株式会社イノベスト菱山諒さん、立教大学SA2名の方たちをお招きして「桃大らしさを考えるワークショップ」を実施しました。学習会としては、昨年度、学習支援センターとの共催で英語による授業の進め方について開催していますが、今回は初の試みとして経営学部、社会学部、社会福祉学科の学生32名にも参加してもらい実施しました。従来の研修会とは一味違う活気があり、今後の研修会のあり方としても参考になりました。

全学FD推進委員会では、委員会活動そのものがひとつのFD活動であるという観点から、アクティブな取り組みを行ってきました。昨年度の「FD NEWS」でも述べましたが、いい教育を実践し、いい大学を目指すことは、私たちが共有できる目標です。是非とも力を合わせて、自他ともに誇れるいい大学にしていきたいと思っております。

## 2015年度 授業改善のための「学生による授業評価」アンケート実施報告

「学生による授業評価」の目的は、授業に対する学生の率直な意見を聞き、学生と教員が協力して「わかりやすく質の高い授業」を作りあげ、教育改革（カリキュラム改革）等を進めていくことにあります。

2013年度より、担当教員が学生の学習実態を把握し、授業の問題点を抽出して授業にフィードバックできるような授業評価アンケートとするため、改訂を行いました。こうした工夫により、学生の学習活動に対する自覚と向上を促し、担当教員においては学生の授業への取り組みの結果を受けて、より良い授業とするための検討材料を提供することを目指しています。

### ◆春学期 実施状況

実施期間：2015年6月29日（月）～7月11日（土）  
 実施率：実施対象科目 678科目中 641科目実施 実施率94.5%  
 回答率：50.8%（回答者数／対象クラス履修者数）  
 所見提出率：47.3%

### ◆秋学期 実施状況

実施期間：2015年12月8日（月）～12月20日（土）  
 実施率：実施対象科目 733科目中 772科目実施 実施率94.9%  
 回答率：50.4%（回答者数／対象クラス履修者数）  
 所見提出率：56.6%

#### ●結果の公表

科目毎の授業評価をクロス集計した結果のほか、自由記述については全体的に項目毎に分類集計したものを、本学ホームページで公開しています。（学内からのアクセスのみ可能）

#### ●2015年度からの変更点

2015年度より、アンケート様式を4種類（共通科目、外国語科目、資格課程科目、健康・スポーツ学演習）から2種類へ削減しました（共通科目、外国語科目、資格課程科目を1種類に統一し、健康・スポーツ学演習科目との2種類へ削減）。

### ◆アンケート実施方法の見直しと結果活用の取り組み

#### ●アンケート実施方法の見直し

WEB化を含めた実施方法について、引き続き検討を行う予定です。

#### ●アンケート結果活用の取り組み

教員や学生からの改善に関する要望や意見をふまえて、具体的な対応策について検討することとします。

## SA（スチューデント・アシスタント）・TA（ティーチング・アシスタント）制度活用状況

本学では、2009年度からのSAトライアルを経て2012年度よりSA制度を導入しました。また、2012年度からTAトライアルを経て、2013年度よりTA制度を導入しました。

全学FD推進委員会ではSA・TA制度に関するガイドラインを定め、ガイドラインに沿って運用しており、学期ごとにSA・TA学生や受講生、担当教員へのアンケートを実施し、アンケート結果と担当教員からの「成果報告書」の検証などを基に、制度改善に努めています。

### ◆SA制度

〈目的〉桃山学院大学では、FD活動の一環として授業改善のためにSA（スチューデント・アシスタント）制度を導入する。これは、学生が教育活動に参加することにより、教える側と教えられる側双方の力量の向上を図ることを目的とする。

#### ●2015年度 SA制度導入授業●

学部	授業名	開講時期	授業担当者（責任者）
経営学部	経営学特講—本校出身税理士による会社経理入門 <春>	春学期	小澤 義昭
経済学部	演習Ⅲ <通期>	通期	辻 洋一郎
	経済学特講—モチベーションアップ講座 <秋>	秋学期	辻 洋一郎
	入門演習 17<春>	春学期	吉田 恵子
	基礎演習 21<秋>	秋学期	吉田 恵子
	コース演習 18<秋>	秋学期	吉田 恵子
	共通自由特別講義—IT活用の実際 <春>	春学期	藤間 真
社会学部社会学科	データ解析実習 02<秋集>	秋学期	村上 あかね
社会学部社会福祉学科	[合同授業]社会福祉フィールドワーク 01~05<通期>	通期	春学期：竹内 靖子 秋学期：金澤 ますみ
法学部	[合同授業]基礎演習 01~12<通期>	通期	大久保 正人、 的場 かおり

### ◆TA制度

〈目的〉桃山学院大学では、FD活動の一環として授業改善のためにTA（ティーチング・アシスタント）制度を導入する。これは、本学大学院学生が教育活動に参加することにより、教える側と教えられる側双方の力量の向上を図るとともに、本学大学院学生の教育研究職に就いた際に必要となる教育力の獲得に寄与することを目的とする。

#### ●2015年度 TA制度導入授業●

学部・研究科	授業名	開講時期	授業担当者（責任者）
経営学研究科	演習 <通期>、演習A <前期>、演習B <後期>	通期・前期・後期	正亀 芳造
経済学部	演習Ⅲ <通期>	通期	吉田 恵子
	演習Ⅳ <通期>	通期	吉田 恵子
	歴史学—ヨーロッパ統合史 <春集>	春学期	伊藤 カンナ
	図書館・博物館への誘い <春>	春学期	藤間 真

## 特集 教員・SA・受講生と語るSAの効果

経済学部「コース演習」で活躍するSAと、受講生の方々にお話を伺いました。



- 出席者** SA 奥宮 修斗(経済学部4年次生)  
**受講生** 井上 雄登(経済学部2年次生)、加尻 尚也(経済学部2年次生)、中原 章吾(経済学部2年次生)  
**担当教員** 吉田 恵子(経済学部准教授)「コース演習」「基礎演習」「入門演習」でSAを採用  
**司会・インタビュアー** 田中 志津子(法学部教授・全学FD推進委員会 委員)

### SAを取り入れた理由・・・学生目線の授業へ



SA 奥宮さん

**司会**：まず吉田先生にお聞きします。なぜSAをこの授業に取り入れようと思われたのですか？

**吉田**：「コース演習」では、受講生全員にテキストを割り振りプレゼンしてもらいます。プレゼンの質にばらつきがあること、教員への事前の資料提出やリハーサルを負担に感じる受講生がいたり、私の話し方が学生目線ではないかも？といったところに課題を感じて、SAを導入しました。

**司会**：では奥宮さんをSAに採用された理由を教えてください。

**吉田**：奥宮さんはプレゼンが好きで、新しいことをどんどん取り入れてパワーポイントを作成していました。その能力を生かして授業運営を助けてほしい、そして楽しんでプレゼンをしている先輩がいることを二年次生に知ってもらいたいと思い、奥宮さんをSAに採用することにしました。

WEB

### 教員にも受講生にもできないフォロー！

**吉田**：ある受講生から「先生に聞いて怒られたらどうしよう、と思ったことを奥宮さんに聞いた」と聞きました。真面目な学生に限って「こんなことを聞いて良いのか」と思うようですが、質問しようかとためらっている時間があったくないと思います。

**司会**：質問しやすいのはSAの利点ですね。

**吉田**：他の講義でもSAを導入していますが、やはり受講生は、同じ授業を受講している先輩であるSAに「去年はどうでしたか」等と聞いています。それは私一人の授業なら聞けないこと。奥宮さんがいるから受講生は遠慮せずに疑問を聞けますし、私は奥宮さんから「受講生がこう言っているから来年こうしたらどうですか」等の提案を聞けます。学生の視点から授業に参加してくれる人がいてこちらもやりやすいです。

**司会**：みなさんは、もし奥宮さんがいなくて先生だけだったらどうでしたか。

**井上**：先生だけだったら緊張感があつたかもしれません。やりづらいというか。

**中原**：奥宮くんがいることで、リラックスして気軽に質問も聞けたと思います。

**吉田**：私が強めに怒った時も、「僕も以前同じことで怒られたよ」と教員や受講生同士では絶対にできないフォローをしてくれています。

WEB



「コース演習」の授業風景

### SA体験で成長！

**司会**：SAの仕事をしたことによって自分が変わった、成長したということはありませんか？

**奥宮**：以前より相手の立場に立って考えるようになりました。どうしたらこの人に伝わるか、どんな言葉を使うとこの人により近づけるか。受講生は個性のある人が多く、いろいろな個性の人にどう伝えるかを学べたと思います。

**司会**：奥宮さんの中でよい経験になったのですね。

**奥宮**：はい。これから社会に出て行くのですが、例えば職種、業種によって話す言葉も変わってくると思います。それを意識して、この業種の人ならこう言ったら、この言葉が伝わるのではないかと、そんなことを考える練習になったと思います。

## アドバイスにひと工夫・・・図と手書きで気持ちも伝える

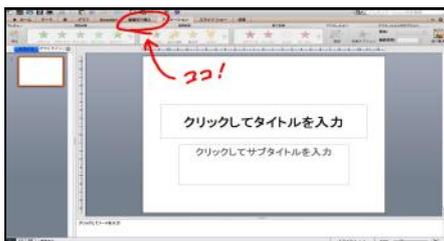
**司会**：受講生へ図(PDF)に手書きのアドバイスを交えて送っていたそうですね。

**奥宮**：言葉だけでは説明しにくく、伝わりにくいので図で見せた方が良かったと思います。気持ちも伝わるように手書きも入れています。小学校の時、手書きの花丸がとても嬉しかったことを思い出して作業しました。

**司会**：受けとる受講生のみなさんはどうですか？

**中原**：文字だけで説明されるよりもすごくわかりやすいですし、奥宮さんの気持ちが伝わります。

**井上**：私は見出しと項目のフォントや色、対比する項目の配置についてアドバイスを受けたのですが、「この部分を赤色にして」「対比する内容はこの配置で」等のアドバイスを写真にして送って頂きました。写真のイメージで修正ができ、とてもわかりやすかったです。また、私は1年次生の演習でSAを担当しています。同じようにパワーポイントを指導していますが、奥宮さんのように指導しようと思いました。良い経験でした。



奥宮さんが受講生に送った説明用データ。  
赤字が手書き部分。

**司会**：奥宮さんからアドバイスをもらって役に立ったことはありましたか？

**中原**：文字サイズが小さいと指摘され、なおしました。自分では気がつきませんでした。

**加尻**：白地に薄い水色で作成していて、見にくいから変更するようにとメールを頂きましたが、大丈夫だろうと思い、変更せずにプレゼンしました。しかしプレゼンしてみると予想以上に見にくく、やはり見にくいと言われました。

**司会**：色覚に支障がある方を含め、万人に見易くするカラーユニバーサルデザインというものがあります。それを踏まえた上での奥宮さんのアドバイスだと思います。

**加尻**：そうです。素直に受けとめないといけなかったです。

WEB

## SAから後輩に伝えたいこと

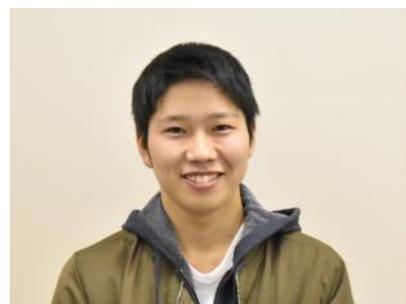
**司会**：SAの経験を踏まえて後輩にどうなって欲しいと考えていますか？

**奥宮**：みなさん学ぶこと、吸収することが上手です。私のアドバイスなども吸収してくれたと思います。次は吸収したことをどう活かしていくか。それには私がSAで「どう伝えようか」と考えたように、いろいろな事に「本当にそうなの？」と深く掘り下げて考えることが役に立つと思います。私は小さい頃探究心が強く、何でも聞く子供でした。みなさんも小さい頃を思い出してなぜ？と調べてしっかりと考えていって欲しいと思います。

**司会**：大切なことですね。探究心が無くなったら人間は向上しないですね。今日はありがとうございました。



受講生 井上さん



受講生 加尻さん



受講生 中原さん



座談会は「コース演習」の開講教室で行いました。

## 2015年度 活動報告

### ◆全学FD研修会

#### 第1回 可動式机・椅子を使った「アクティブ・ラーニング」体験セミナー

日程 : 5月27日(水) 13:30~14:30

講師 : コクヨファニチャー株式会社 TCMバリューユニット TCM営業開発部  
西日本医療教育営業開発グループリーダー 松本 毅 氏

会場 : 2号館203教室(可動式机・椅子導入教室)

対象 : 専任教職員、兼任講師、学生

参加者数 : 44名(教職員39、学生5)

主催 : 全学FD推進委員会/後援: 大学改革推進室/協力: コクヨファニチャー株式会社

2015年3月下旬に、多様化する授業形態への対応と学長方針による「アクティブ・ラーニング」の推進を図るため、2号館、3号館のゼミ教室と聖ヨハネ館3階語学教室の机・椅子について可動式モデルへの入れ替えが行われ、2号館の3教室(2-105、203、204)・3号館の6教室(3-207~209、3-307~309)では、グループ活動の活性化、学生の自主性やコミュニケーションスキルの向上を目的として、可動式の机・椅子に加え、「資料表示」「黒板」「動画再生」の3機能を兼ね備えた70インチの電子黒板が導入されました。

これを受け、今回の研修会は可動式の机・椅子、電子黒板が納入され生まれ変わった2号館の203教室を会場に設定しました。

#### 第2回 「教員のための面接技法～すぐに生かせる理論と方法」

日程 : 7月27日(月)、29日(水) 13:00~14:00 ※2回とも同じ内容

講師 : 本学キャンパスソーシャルワーカー 野崎千里 氏

会場 : 聖ヨハネ館2階 多目的室(国際センター・ボランティア活動支援室横)

対象 : 専任教員、兼任講師

参加者数 : 47名(教員のみ)

定員 : 各回15名程度

主催 : 全学FD推進委員会

以前から要望が多かった「学生との面談」をテーマに研修会を開催しました。面接についての基礎知識と一般的な技法を紹介し、教員が学生と面談する際の不安や疑問の解決をはかりました。

### 第3回 全学FD研修会「障がいのある学生のための『合理的配慮』のあり方について」

- 日程 : 12月2日(水) 15:00~16:00
- 講師 : 社会学部 黒田 隆之准教授、学生支援課 ボランティア活動支援室職員 鳴瀬 剛大 氏
- 場所 : 聖ペテロ館5階 第4会議室
- 対象 : 専任教職員、兼任講師
- 参加者数 : 55名(教職員のみ)
- 主催 : 全学FD推進委員会

2016年4月より障害者差別解消法が施行されます。障害者差別解消法では、「不当差別的取扱」と「合理的配慮をしないこと」が差別になります。障がい者に対しては、合理的配慮を行うよう努めなければなりませんし、差別とされる対応をした場合は、障がいのある人にどんな対応をしたか、報告を求められたり、注意勧告される場合があります。

本学では学生の申し出に応じて、身体障がいのある学生については、ノートテイクや学内移動の支援などを行っていますが、今日では発達障がいなどで、教学面以外にもコミュニケーションや対人関係の形成の仕方などキャンパス生活において様々な困難を抱える学生(=「配慮を必要とする学生」)が増えてきており、そうした課題に十分に対応できていない状況です。

そこで、教学面やキャンパス生活面における「大学としての合理的配慮のあり方」について、研修会を開催しました。

## ◆全学FD学習会

### 第1回 全学FD学習会 「桃大らしさを考えるワークショップ」

- 日程 : 2月4日(木) 13:00~17:00
- 講師 : 立教大学経営学部経営学科 助教 館野 泰一氏、株式会社イノベスト菱山 諒 氏、立教大学SA 2名
- 場所 : 聖ペテロ館5階 第4会議室
- 対象 : 専任教職員、兼任講師、本学学生
- 参加者数 : 63名(教職員31、学生32)
- 主催 : 全学FD推進委員会

立教大学経営学部の「ビジネス・リーダーシップ・プログラム(BLP)」コーディネーターの館野氏、卒業生の菱山氏、現役SAを招き、3部構成の学習会を行いました。全国の大学・高校、企業・人事担当者が毎週視察に来ている人気プログラムを体験し、桃大らしい授業、SAの活用についてワークショップを用いて考えました。

初の学生参加のプログラムでしたが、参加者アンケートの満足度も高く好評で、「立教大学SAに刺激を受けた、今後も学生参加の研修会、勉強会の開催を希望する、との声が多くありました。」

☆ ミッションステートメント ☆

『桃山学院大学は、自由と愛の精神に基づく学びの場として、ここに集うすべての人の多様な価値観を認め合いながら、向上心を絶やさず、みずから考え、積極的に行動する世界の市民を育むことを使命とする』

## 外部研修会参加報告

2015年度は下記の研修会に参加しました。

日程	研修名	主催	開催場所
5/23(土)	関西地区FD連絡協議会 第8回総会	関西地区FD連絡協議会	京都大学
7/12(土)	大学生研究 フォーラム 大学教育に必要なのは「プロジェクト」か「プロジェクト学習」か	京都大学 高等教育研究開発推進センター／東京大学 大学総合教育研究センター／公益財団法人 電通育英会	京都大学
10/30(金)	2015年度第6回FD講演会 「大学教育の情報化～中等教育との接続から考える～」	関西学院大学 教務機構高等教育推進センター	関西学院大学
11/10(火) 11/11(水)	立教大学 BLP(ビジネス・リーダーシップ・プログラム)視察	立教大学 経営学部ビジネス・リーダーシップ・プログラム	立教大学
12/19(土)	『モノポリーで学ぶ簿記会計』報告書	日本簿記学会／簿記教育研究部会	熊本学園大学
2/25(木) 2/26(金) 2/27(土)	FDのための情報技術研究講習会	公益社団法人 私立大学情報教育協会	大阪経済大学

## 2015年度 全学FD推進委員会構成メンバー紹介

〔委員長〕松端 克文（副学長、社会学部）

〔委員〕松本 直也（経済学部）、金澤 ますみ（社会学部）、櫻井 結花（経営学部）、  
Michael Carroll（国際教養学部）、瀧澤 仁唱（法学部 2015年4月～9月）、  
田中 志津子（法学部 2015年10月～2016年3月）、中村 恒彦（共通教育協議会選出、経営学部）、  
竹島 亮輔（教務課 課長）

〔事務局〕尹 錫洋（学長室 課長）、山崎 真由美（学長室）、斎藤 桂子（学長室）

発行日 2016年3月30日

発行 桃山学院大学 全学FD推進委員会 事務局

〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1-1

電話: 0725(54)3131

FAX: 0725(54)3203

電子メール: zfd-momo@andrew.ac.jp